

令和6年第2回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和6年2月13日（火） 午後2時00分
- 2 招集場所 大河原町役場 2階 第1会議室
- 3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、片倉亜寿香委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、木村武俊 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 開 会 午後2時00分
- 6 令和6年第1回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
丹羽委員、片倉委員 署名。
- 7 教育長報告
(1) 一般事務報告 なし
(2) 専決事務報告
報告第1号 専決処分の報告について
(令和5年度大河原町一般会計補正予算（第10号）)
教育総務課長、生涯学習課長より説明。
- 8 議 事
議案第2号 県費負担教職員の異動等の内申について（非公開）
教育長より説明。
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。
- 9 その他
(1) 教育長報告（学校教育に関する新聞記事等の紹介後、校長会資料による報告）
 - 1 「子供の可能性をひらく」
「時報市町村教委」に掲載。子供同士の学び合いが大事。どこの市町村も学力の問題だけでなく、体力づくり、豊かな心の育成など、課題は尽きない。

2 私が大切にしている10のこと（文藝春秋）

○「監督になんでも話せる」関係性をつくらない（須江航）

子供の差別はしないが、区別はする。とくに、「監督になんでも話せる」関係性を作らないでは、監督と選手には「監督が見ているという緊張感」と「数字と向き合う緊張感」が必要で、そうすることでクリエイティブなものが生まれると説いている。

3 「個別最適な学び」の視点で授業全体を見直し、個の育ちを支えて、「自立した学び手」の育成を（那須正裕）

「個別最適な学び」を実践する上で重要な観点は、「指導の個別化」と「学習の個性化」である。学習指導要領の改訂にどう反映するのか注目したいところ。

4 『教室と学校の未来へー学びのイノベーションー』（佐藤学）

ICT教育について、「コンピュータは「教えるツール」よりも「学ぶツール」＝思考と探究のツール」として活用する方がより効果的。文房具のひとつとして活用することが最も効果的と述べている。効果的にICTを活用していくのが大事。

5 『中学校における対話と協同』（佐藤雅彰）

教師が一方向的に話す授業の決別。一斉授業はやらない。対話的学びを多く取り入れて、子供たち同士の学び合いが大事。対話の質を高めるためにどうすればよいかを考える。中学校の次年度の校内研究に、この考え方を取り入れていただきたい。

6 算数科における資質・能力の育成（笠井健一）

「学びに向かう力、人間性等の指導と評価」についての論説。主体的に学ぶ姿をどう評価するのか。分からない子が何人もいるときは、まずは、一通りの方法でもいいので分からせるのが大事。教師は、分からない子供が、どのようなことを基にすれば分かるようになるのかを教材研究して知っていることが必要。

個人内評価は数値では表すことができず、文章表記や口語表現でしか表現できない。この評価が、通信表等の所見として伝えるべき内容である。

7 『教師の判断力』（森本隆史）

教師は授業のある瞬間に、いろいろな言葉を発する。どんな言葉が相応しいか、子供たちのために大切にすべきことは何か等を判断していくかで授業の展開が左右されるという。

8 令和5年度全国体力・運動能力等調査結果

中学校の2年生は全国値を上回っている状況である。

9 人事について（予定）

人事の日程等について説明。

10 教育課程の実施状況

「毛筆」や「道徳」の授業などの未履修問題の学校があった読売新聞記事の紹介。

11 その他

各校の授業、公開研究会、事業、立志式の様子について資料により説明。

舟山委員	佐藤学先生の話。コンピュータの活用時間と学力低下の関係。教師が一人で使った時が一番良いという。指導や学びにどのように使えば良いのか。
鈴木教育長	例えば、グラフを作る場合。折れ線、棒、円のどのグラフが良いのか。何が効果的かなどを判断し作成する時は、コンピュータが良い。 問題文や解き方が全部タブレットに載っている場合、子供が書いたり考えたりする時間がない。子供がコンピュータの操作だけに集中してしまう。 分かったつもりになる子供が多いのではないか。
舟山委員	コンピュータはツールでの使用が大変良い。
片倉委員	今は、アプリで写真をとると、翻訳が簡単に出てくる。辞書で調べたりしていないので、考えが定着しないと思う。年々簡単になるアプリがどんどん出てくるので、心配である。
舟山委員	佐藤学先生の特別支援教育の話。通常学級で学ばせるよう勧めているが疑問を感じる。特別支援教室や特別支援学校で、一人一人きめ細やかな指導をした方が良い。
一盃森委員	那須先生の話。個別最適な学びを突き詰めた形で学校も大変になる。3つの事例があるが、現行の学校教育制度を改善しないと定着が難しい。 「指導の個別化」「学習の個性化」は、平成の頃から行っていたことで、現行の学校教育制度の中で、どのように子供を育てるかを考えてきたが、レベルが違う。とても難しい状況である。 佐藤学先生の話。コンピュータの活用については、担当の先生で議論を重ねている。学校によって使用頻度に差があるが、効果的な活用の方法についての指標は町で持っているべき。逆の効果もあることを踏まえ議論を重ねてほしい。 特別支援教育の話。日本はここ30～40年でようやく特別支援学校に入れるようになった。すべての子どもが同じクラスで学ぶのは難しい。学びの保障。保護者の理解も難しい。 教育の進め方について、多様な考え方があるということを踏まえながら、子供たちの指導を進めていかなければならない。

	<p>須江監督の話。指導の仕方が高校3年までではなく、その先まで見ている。変わってきていると思う。</p>
<p>丹羽委員</p>	<p>特別支援教育。いろいろ障がいを持っている子がいる。例えば、精神障がいを持った子が、すべての障がいをなくすのは難しい。対応される先生が、その子に寄り添って対応するのが良い。</p> <p>アプリなどの便利な話がでたが、苦勞するのと楽な方では楽な方を人は選ぶ。自分の人生の為にはならない。教えてくれる先生や家庭が必要であり大事である。</p> <p>佐藤学先生の話。教えられる知識を持っている子供を、どのように先生がリードして、相手に傷つけないように相手に寄り添って、「ありがとう」と言えるような指導ができるかがとても大事。先生方の指導力が必要。</p> <p>一人一人に寄り添った授業が大切。</p>
<p>片倉委員</p>	<p>クラスには様々な子がいる。性格の差で教えてと言えない子がいる。このような子も導いてあげられれば良い。</p>

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和5年度行事予定について説明。

小野寺学校教育専門監

令和5年度大河原町標準学力調査の学力の状況について説明。

<p>一盃森委員</p>	<p>一人一人の誤答分析はしているのか。</p>
<p>小野寺専門監</p>	<p>業者より回答状況を踏まえ分析は出ている。先生方は、資料を分析した上で、適切な対応ができれば良い。</p>

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和6年3月22日(金)午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後3時40分

令和6年3月22日

署名委員

署名委員